

木澤義之	わが国における緩和ケアの基本教育の現状－PEACE プロジェクトの実践を通して－	順天堂医学	55	472-477	2009
木澤義之	【がん対策基本法後の前と後－何が変わり、何が変わらないか】がん対策基本法後の緩和ケア教育－PEACE プロジェクトの実践をとおして－	緩和ケア	20 巻1号	18-22	2010
木澤義之	プライマリ・ケア医の知っておきたい“ミニマム知識” 緩和ケアの普及について－すべての医師が基本的な緩和ケアを実施できるように－	日本内科学会雑誌	98巻2号	211-216	2008
木澤義之	【臨床と研究に役立つ緩和ケアのアセスメント・ツール】 その他の評価とツール 緩和ケア初診時データセット	緩和ケア	18	149-156	2008
木澤義之	研究プロジェクト 緩和ケアに関する教育	緩和医療学	10	229-234	2008
木内大佑, 山口崇, 大石律子, 大関令奈, 神谷浩平, 久永貴之, 東健二郎, 志真泰夫.	がん性疼痛の評価と治療－基本的知識と処方のコツ－	外科治療	101(2)	113-122	2009
志真泰夫	緩和ケアにおける教育プログラム－基本教育と専門教育	緩和ケア	19 (10増刊号)	114-118	2009
森田達也	緩和支援治療の量と質の充実と普及をめざす先進的な取り組み	漢方医学	33	295-298	2009
森田達也	スピリチュアルケアガイドの作成プロジェクトの背景	緩和ケア	19	16-21	2009
草島悦子, 森田達也, 他	緩和ケアとスピリチュアルケア	緩和ケア	19	43-48	2009
前堀直美, 森田達也, 他	薬剤師からみた地域連携 保険薬局の抱える現状と課題	緩和ケア	19:	130-136	2009
森田達也, 他	がん性疼痛治療におけるフェンタニル貼付剤の意義と今後の展望	Pharma Medica	27	61-68	2009
森田達也	症状緩和 終末期における輸液治療	治療学	43	377-382	2009
森田達也, 他	すべての病状を通じての緩和ケアチームの活動例	治療学	43	459-464	2009
森田達也	維持輸液、栄養輸液、経腸栄養 終末期がん患者に対する輸液治療	総合臨床	58(増刊)	1110-1118	2009
森田達也	緩和ケアチームと麻酔科のコラボレーション 緩和ケア医の立場から	LiSA	16(別冊'09)	40-49	2009
森田達也	終末期がん患者に対する輸液治療	外科治療	101	149-158	2009
森田達也	30年間のホスピスの歴史が緩和ケアチームの基盤となっていた	Cross Cancer Research	1	12-13	2009
森田達也	緩和ケアチームの活動とリハビリテーション	MB Med Reha	111	45-50	2009
鄭陽, 森田達也, 他	地域における講義とグループディスカッションを複合した多職種セミナーの有用性	ペインクリニック	30	1553-1563	2009

藤本亘史, 森田達也	疼痛マネジメントをするための系統的・継続的評価	月刊ナーシング	28	90-94	2008
森田達也	緩和ケアの現在と将来— Introduction for psychiatrists—	臨床精神薬理	11	777-786	2008
山岸暁美, 森田達也	緩和ケア普及のための地域プロジェクト—がん対策のための戦略研究「OPTIMプロジェクト」	緩和ケア	18	248-250	2008
森田達也	終末期癌患者における輸液治療— 日本緩和医療学会ガイドラインの概要—	日本医事新報	4390	68-74	2008
山岸暁美, 森田達也, 他	研究プロジェクト①地域介入研究 (戦略研究)	緩和医療学	10	215-222	2008
河正子, 森田達也	研究プロジェクト⑧スピリチュアルケア	緩和医療学	10	256-262	2008
安藤満代, 森田達也	終末期がん患者へのライフレビュー —その現状と展望—	看護技術	54	65-69	2008
安藤満代, 森田達也	終末期がん患者へのスピリチュアルケアとしての短期回想法の実践	看護技術	54	69-73	2008
森田達也	医療連携と緩和医療；OPTIMプロジェクトによる地域介入研究の紹介	コンセンサス癌治療	7	123-125	2008
森田達也, 他	臨床と研究に役立つ 緩和ケアのアクセスメント・ツール II. 身体症状 4. 緩和ケアニーズのスクリーニングツール	緩和ケア	18(Sup pl)	15-19	2008
森田達也	臨床と研究に役立つ 緩和ケアのアクセスメント・ツール IX. 患者・家族における臨床ツール 4. 症状評価のためのツール	緩和ケア	18(Sup pl)	129-131	2008
藤本亘史, 森田達也	臨床と研究に役立つ 緩和ケアのアクセスメント・ツール X. その他の評価とツール 5. 緩和ケアチーム初期評価表	緩和ケア	18(Sup pl)	157-160	2008
森田達也, 他	緩和ケアチームの活動—聖隷三方原病院の場合—	日本臨床	65	128-137	2007
森田達也	緩和ケアにおけるクリニカルパス。—序—	緩和医療学	9	1	2007
森田達也, 他	STAS-Jを用いた苦痛のスクリーニングシステム	緩和医療学	9	159-162	2007
森田達也, 他	緩和ケアにおけるコンサルテーション活動の専門性. 緩和ケアチームの活動の現況と展望—聖隷三方原病院の場合	ホスピス緩和ケア 白書2007		17-23	2007
安達勇, 森田達也	終末期がん患者に対する輸液ガイドライン：概念的枠組み	緩和ケア	17	186-188	2007
山田理恵, 森田達也, 他	末梢静脈からのガイドワイヤーを用いた中心静脈カテーテルの挿入	緩和ケア	17	223-224	2007
明智龍男, 森田達也, 他	看取りの症状緩和パス：せん妄	緩和医療学	9	245-251	2007
八代英子, 森田達也, 他	看取りの症状緩和パス：嘔気・嘔吐	緩和医療学	9	259-264	2007
森田達也	終末期の輸液管理	消化器外科Nursing	12	965-974	2007
森田達也	緩和ケアへの紹介のタイミング：概念から実行のとき	腫瘍内科	1	364-371	2007

森田達也	終末期がんの場合 1. 輸液, がん医療におけるコミュニケーション・スキル	医学書院		58-63	2007
森田達也	終末期がんの場合 2. 鎮静, がん医療におけるコミュニケーション・スキル	医学書院		64-69	2007
橋爪隆弘、中澤葉宇子	がん対策基本法後に緩和ケアチームはどう変わったかー研修会から見える課題	緩和ケア	20 (1)	23-27	2010
橋爪隆弘、中澤葉宇子	緩和ケアに携わる医療者従事者の育成を目的とした緩和ケアチーム研修会についてーがん診療連携拠点病院緩和ケアチーム研修会ー	緩和医療学	10(3)	310-315	2009
橋爪隆弘、石川千夏	緩和ケアを学ぶ、教える 緩和ケアチームで行われていること	緩和ケア	19 (10月増刊号)	188-192	2009
橋爪隆弘	【癌終末期の心のケアと鎮痛剤の使い方】 癌患者とのコミュニケーションと精神的ケア	外科治療	99巻6号	553-556	2008
橋爪隆弘	【緩和ケア・コンサルテーション悩み多きコンサルテーションとその対応】 緩和ケア・コンサルテーションの現状と課題	緩和ケア	18巻6号	464-466	2008
林昇甫	【緩和ケア・コンサルテーション悩み多きコンサルテーションとその対応】 事例から学ぶコンサルテーションのコツ コンサルティをどう支えるか	緩和ケア	18巻6号	472-474	2008
三木恵美, 岡村 仁, 他	末期がん患者に対する作業療法の効果ー作業療法士の語りの質的内容分析ー.	作業療法	28	48-59	2009
藤野成美, 岡村 仁, 他	統合失調症患者の家族介護者における介護経験に伴う苦悩.	日本看護研究学会雑誌	32	35-43	2009
花岡秀明, 岡村 仁, 他	中高年者における肥満と健康関連QOLの検討ー男性と女性の相違に関する一考察.	総合リハ 37: 1167-1173	37	1167-1173	2009
安東由佳子, 岡村 仁, 他	神経難病患者をケアする看護師における仕事ストレスー尺度の作成ー質問項目選定のための検討ー.	広島大学保健学ジャーナル	8	1-6	2009
安東由佳子, 岡村 仁, 他	神経難病患者をケアする看護師におけるバーンアウト因果モデルの作成と検証.	日本看護科学会誌	29	3-12	2009
岡村 仁	うつ病の理解とケアーうつ病に対する精神療法ー.	緩和ケア	19	225-227	2009
繁本 梢, 岡村 仁	高齢がん患者とリハビリテーション.	腫瘍内科	3	546-550	2009
岡村 仁	病理医が患者さんと会うときに心得ておきたい基礎知識 A. がんと診断を患者に知らせるとき.	病理と臨床	27	675-677	2009
岡村 仁	がん患者のリハビリテーション.	日本精神科病院協会雑誌	28	31-35	2009
山下真裕子, 岡村 仁	うつ病の再発予防に関するセルフエフィカシー尺度の開発と信頼性・妥当性の検討.	臨床精神医学	37	1045-1052	2008

花岡秀明, 岡村 仁, 他	在宅高齢者に対する転倒・認知症予防プログラムの予備的研究.	作業療法ジャーナル	42	1254-1260	2008
横井輝夫, 岡村 仁	認知症者のBPSDの解釈モデルについての検討.	老年精神医学雑誌	19	997-1008	2008
小野ミツ, 岡村 仁, 他	介護者が高齢者にとる位置と向きの分析.	日本看護科学会誌	28	46-54	2008
岸本光代, 岡村 仁	入学時における医療系学生のSense of Coherence (SOC)に関連する要因の検討.	保健医療社会学論集	19	82-93	2008
岡村 仁	サイコオンコロジーの理解と実践を目指して.	コンセンサス癌治療	7	2-3	2008
岡村 仁	がんチーム医療とリハビリテーション.	腫瘍内科	2	343-347	2008
藤野成美, 岡村 仁	精神障害者の家族介護者における介護の肯定的認識とその関連要因.	臨床精神医学	36	781-788	2007
藤野成美, 岡村 仁, 他	精神科における長期入院患者の苦悩.	日本看護研究学会雑誌	30	87-95	2007
大谷道明, 岡村 仁	高齢者の運動療法の効果と限界: 高齢者の認知機能と運動療法.	PTジャーナル	41	47-52	2007
大谷道明, 岡村 仁, 他	慢性期脳卒中者の認知症に対するアプローチ.	PTジャーナル	41	269-275	2007
岡村 仁	がん患者のリハビリテーション.	腫瘍内科	1	402-406	2007
岡村 仁	悪性腫瘍の遠隔効果 “paraneoplastic syndrome” に関する最近の知見.	総合病院精神医学	19	348-352	2007
高橋美賀子	日本におけるがん患者のサポートグループ, その実情と今後の発展に向けて「がんと共にゆったり生きる会」の活動と課題	日本がん看護学会誌	21(2)	118-120	2008
高橋美賀子	エキスパート直伝, いつものケアにプラスひとワザ-痛みのアセスメント, 臥床痛と骨転移による痛みを見分ける	消化器外科Nursing	13(5)	416-417	2008
高橋美賀子	リレーエッセイ, 痛みの周辺から-痛みの意味	がん患者と対症療法	19(1)	66-67	2008
佐藤春香, 高橋美賀子	Q&A集 患者が鎮痛薬の使用に抵抗感を持っている	Nursing Today	24(2)	30-31	2008
大西秀樹	「緩和ケアチーム」精神科医ができること、何が期待されているのか?	精神医学	49	897-899	2007
笹原朋代, 三條真紀子, 梅田恵, 他	大学病院で活動する緩和ケアチームの支援内容 -参加観察の結果から-	日本がん看護学会誌	22(1)	12-22	2008
宮下光令, 笹原朋代	QOL 包括的な緩和ケアの代理評価尺度 (STAS-J)	緩和ケア	18(10)	71-4	2008
笹原朋代	医療者のケア態度、困難感、満足度 緩和ケアチーム活動上のバリア・アセスメントツール	緩和ケア	18(10)	118-120	2008
笹原朋代	医療者のケア態度、困難感、満足度 一般病棟の看護師の終末期がん患者のケアに対する困難感尺度	緩和ケア	18(10)	114-117	2008

竹之内沙弥香	患者の死生に寄り添える看護者を育てるために-質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアを实践できる看護師の育成に向けて	週刊医学界新聞	2815	3	2009
竹之内沙弥香	緩和ケアをともに学ぶ、教える 伝えようとするスタッフのために、わが国における緩和ケアの研修・プログラムを知る、学ぶ ELNEC-J指導者養成プログラム 地域・施設における質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの達成を目指して	緩和ケア	19	139-142	2009
竹之内沙弥香	緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアに携わる看護師のための教育プログラム End-of-Life Nursing Education Consortium Japan (ELNEC-J)	看護管理	19	782-785	2009
竹之内沙弥香	終末期医療における倫理的ジレンマと解決案-ELNEC (End-of-Life Nursing Education Consortium)を用いた看護倫理教育-	緩和ケア	Vol. 18 No. 4	312-315	2008
坂本沙弥香・浅井篤・小杉眞司	「日本の終末期医療に携わる臨床看護師による終末期看護教育コンソーシアム (ELNEC: End-of-Life Nursing Education Consortium) の教育プログラムを用いた終末期看護倫理教育法の評価」	熊本大学 先端倫理研究	2	54-65	2007
岩満優美, 笹原朋代, 木澤義之, 他	緩和ケアチームが求める心理士の役割に関する研究-フォーカスグループインタビューを用いて-	緩和医療学	4	228-234	2009
岩満優美	適応障害の理解とケア-適応障害患者に対する心理療法-	緩和ケア	19	210-212	2009
岩満優美	乳癌確定診断後の心理的反応と特性不安との関係について	日本社会精神医学会雑誌	17 (3)	245-256	2009
岡崎賀美, 岩満優美, 他	各職種におけるサイコオンコロジーへの関与 (5) 心理の立場から	コンセンサス癌治療	24	34-35	2008
岩満優美, 他	緩和医療におけるコミュニケーション-臨床心理士の立場から	緩和医療学	9	8-13	2007
塩川満	こんな訴えがあった時,考えられること・できること-眠気	調剤と情報	15(10)	1154-1158	2009
塩川満	緩和医療における薬薬連携の現状と課題	緩和ケア	19(2)	127-129	2009
塩川満	【これからの薬剤師】 がん患者に対して薬剤師ができること	からだの科学	増刊	89	2009
刈込博, 酒見智子, 信濃裕美, 塩川満, 佐藤孝道	妊娠中における精神神経系薬剤の使用評価と胎児に及ぼす影響の検討	日病薬誌	45(1)	125-128	2009
塩川満, 成田年, 武井大輔, 松島勇記, 高木茂実, 橋本敬輔, 池上大悟, 朝戸めぐみ, 平山重人, 成田道子, 新倉慶一, 葛巻直子, 鈴木勉	【モルヒネの副作用対策における新規抗精神病薬アリピプラゾールの有用性	日本緩和医療薬学会雑誌	1	83-94	2008

石丸博雅, 高山慎司, 塩川満, 井上忠夫	がん化学療法に伴う5-HT3受容体拮抗剤の薬剤経済学的検討	癌と化学療法	35(4)	619-623	2008
高瀬久光, 川出義浩, 岩田浩実, 遠藤理香, 伊東俊雅, 塩川満, 芝崎由美子, 中村益美, 久田純生, 佐野元彦, 国分秀也, 加賀谷肇, 鈴木勉	薬剤師によるオピオイドレスキュー指導に対する患者満足度調査	癌と化学療法	35(4)	803-808	2008
伊勢雄也, 輪湖哲也, 三浦義彦, 片山志郎, 清水久範	:モルヒネ徐放錠からフェンタニル貼付剤(マトリックスタイプ)またはオキシコドン徐放錠へローテーションした際の費用対効果分析~.	癌と化学療法	36	2599-2603	2009
須賀理絵, 伊勢雄也, 他	緩和医療の「困った」に答えるーオピオイドの副作用がうまく防げない.	月刊薬事	51(5)	637-642	2009
輪湖哲也, 伊勢雄也, 他	緩和医療の「困った」に答えるー化学療法と緩和医療で使う薬剤の関係がわからない.	月刊薬事	51(5)	629-635	2009
加藤あゆみ, 伊勢雄也, 他	片山志郎:緩和医療の「困った」に答えるー対応困難な症例にどうアプローチすればいいのか.	月刊薬事	51(5)	643-647	2009
伊勢雄也, 片山志郎, 木澤義之	緩和医療の「困った」に答えるー緩和医療の勉強の仕方がわからない	月刊薬事	51(5)	695-699	2009
須賀理絵, 伊勢雄也, 他	緩和医療学講座ABC 服薬指導.	緩和医療学	11(3)	269-273	2009
伊勢雄也, 他	病院における緩和医療の現状ならびに薬剤師業務に関する調査研究	日本緩和医療薬学雑誌	1	11-17	2008
伊勢雄也, 他	オピオイドローテーションの薬剤経済学的分析~モルヒネ徐放錠からフェンタニル貼付剤またはオキシコドン徐放錠へローテーションした際の費用最小化分析~	日本緩和医療薬学雑誌	1	25-30	2008
伊勢雄也, 他	癌性疼痛治療薬	医薬ジャーナル(増刊号)	44 S-1	373-378	2008

